

株主のみなさまへ



## 第55期事業報告書

【平成16年4月1日から平成17年3月31日まで】



石光商事株式会社

証券コード：2750

## GOOD COMMUNICATION

お客様・お取引先様・社員・社会を  
密接につなぐ

**Coffee**  
Beverage materials

Coffee-related equipment and systems

**Food materials**  
Food for commercial use

**Daily life articles**

## 美味しく食べて健康

食の喜びや楽しさに安心・安全・健康  
を添えてお届けします

## Contents

■ 営業の概況	3
■ TOPICS	6
■ 商品別概況	7
■ 連結財務諸表	9
■ 財務諸表(単体)	11
■ 会社情報	13

## 工場を持たない 開発型メーカーへの 脱皮

顧客満足度の多様化に  
フレキシブルに対応



石光会長



駒澤副会長

株主の皆様方には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別の支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第55期(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)の営業の概況と決算についてご報告申し上げます。

このたび当社は、経営の若返りとさらなる発展を期するため、第55期定時株主総会後の取締役会において代表取締役会長に石光輝男、代表取締役副会長に駒澤啓之、そして代表取締役社長に森本 茂が選任され就任いたしました。

今後とも顧客満足度を高めるとともに収益力を強化し、企業業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

取締役会長 石光 輝男  
取締役副会長 駒澤 啓之

# 営業の概況

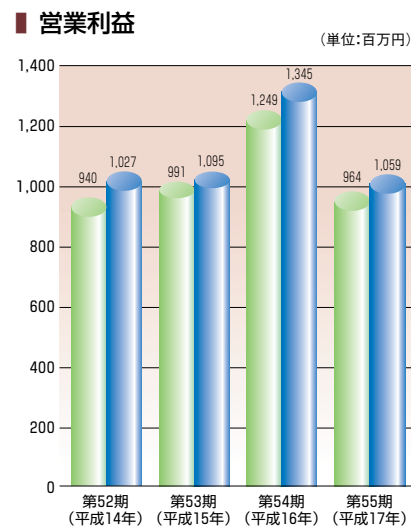
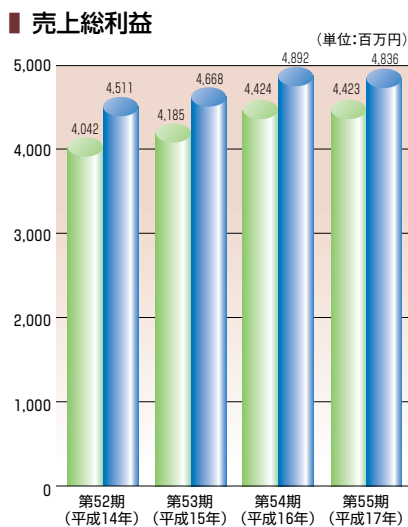
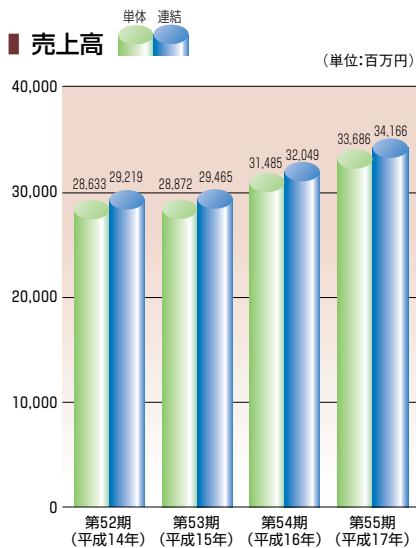
## 営業の概況

当期におけるわが国経済は、設備投資と輸出の民需・外需の拡大等により景気は回復基調にあり、雇用・所得環境の改善や金融不安の解消により個人消費にも持ち直しの兆しが見えてまいりました。しかし、原油を始めとする素材価格が高騰する一方、消費者物価は前年比で小幅な下落基調が続くなど、緩やかなデフレ状況が継続いたしました。

当社の主力市場である飲料・食品業界におきまし

ても、個人消費の低迷と低価格化により売上が伸び悩む中で、7月からの記録的な猛暑や台風・豪雨等の天候災害も相次ぎ、特に外食産業へ大きな影響を与えました。このような厳しい環境の中、BSE、鳥インフルエンザ、残留農薬等、食に対する安心・安全がますます求められております。

このような状況のもと、当社は「消費者は王様、商品開発は消費者の視点から」の観点に基づき、顧客

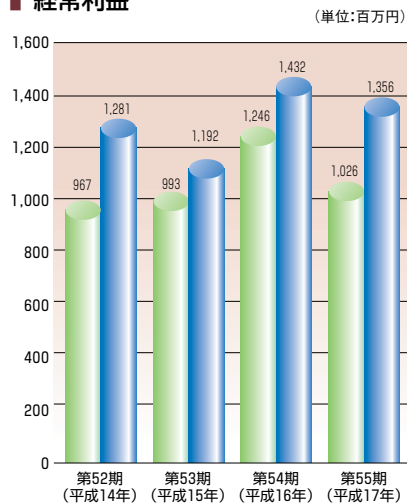


ニーズを迅速・的確に反映した高品質・安全な商品開発と積極的な提案営業活動を行い、新商品を飲料・食品マーケットに提供してまいりました。また、研究開発室の検査機能・品質保証体制の強化をはかるとともに、海外農水産物の生産・加工指導を徹底し、従来にも増して安心・安全な商品の開発輸入に取り組んでまいりました。

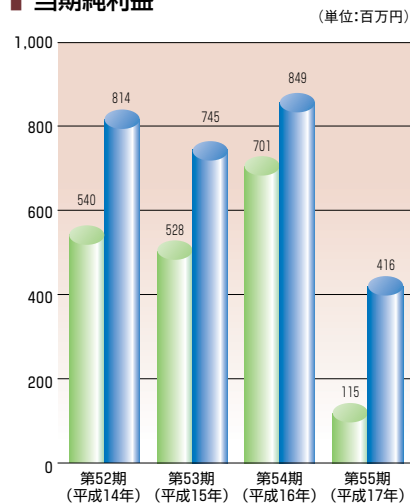
以上の結果、売上高は336億86百万円（前期比

7.0%増）、営業利益は9億64百万円（前期比22.8%減）、経常利益は10億26百万円（前期比17.7%減）となりましたが、長期為替予約であるクーポンスワップに係る期末時価評価損8億31百万円を特別損失として計上した結果、当期純利益は1億15百万円（前期比83.6%減）となりました。

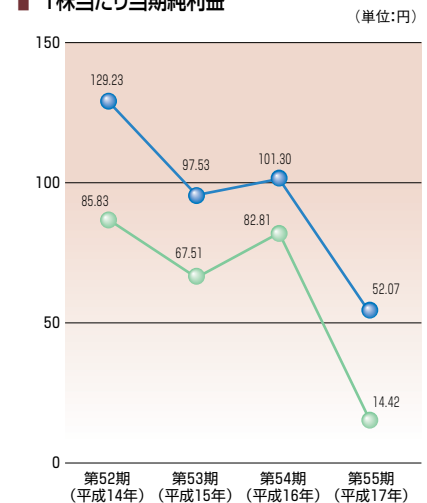
### ■ 経常利益



### ■ 当期純利益



### ■ 1株当たり当期純利益



# 営業の概況

## ●対処すべき課題

飲料・食品業界におきましては、個人消費の回復遅れによる売上の伸び悩みや低価格志向が続く中で、消費者の安心・安全な食品への関心が一層高まるなど、当社を取り巻く環境は厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社は、消費者の食品や飲料に対するニーズを的確に捉えて商品開発を行うとともに、食の安全性を高める体制作りに努めます。

### ①部門の統合及び部の廃止による機能的・機動的な組織運営

平成17年4月に飲料事業を一元化するために「コーヒー部門」と「製品部門」を統合し、「コーヒー・飲料部門」として機能的な高め、「コーヒー・飲料部門」「食品部門」「管理部門」の3部門体制といたしました。また、組織の機動性を高めるために「営業第一部」「営業第二部」「営業第三部」「総務部」を廃止いたしました。さらに顧客の要望に機能的に対応するためにチームの統廃合も行いました。また、成果主義を取り入れた人事制度改革を行い、組織の活性化を図りました。

今後も、常に組織を活性化させ、チーム制の充実を図ってまいります。

### ②品質管理の徹底

平成16年4月に設置いたしました品質保証室により、商品規格書の網羅的整備も完了し、品質保証体制が強化されました。

また、残留農薬につきましては、ポジティブリスト制（世界で使われる農薬について、食品に残留してよい量を定めてリスト化し、基準が設定されていない農薬は、残留を原則禁止する制度）が平成18年に施行されること

となっており、海外生産地の生産管理を強化するとともに、品質検査体制のレベルアップを図るため検査機器を増設するとともに人員も強化いたしました。

今後も品質保証体制及び品質管理体制を強化させ、安全な食品の販売に努めてまいります。

### ③収益基盤の強化

（高付加価値商品の開発、販路の拡大）

収益基盤を強化するために、品目別による以下の施策に努めます。

a) 当社ブランドのプレミアムコーヒー「パラインシリーズ」の商品数をさらに増加させるとともに、オークションコーヒーの取り扱いも積極的に行い、相場の影響を受けにくい商品で収益向上を目指します。

b) 当社が製法特許出願中のレギュラーコーヒー「アロマボトル」の家庭用マーケットでの販売を積極的に拡大してまいります。

c) 当社が開発に力を注いできた冷凍食品の輸入調理加工品は、品質が市場に受け入れられ順調に広がっております。さらに、商品開発を加速するとともに、品質管理体制を強化し、商品アイテム及び販売金額を倍増すべく営業展開を図ります。

当社は、これまでに培った食品の最適生産地の選別、商品開発、製造ライン、品質管理などの豊富な経験と知識、それに流通を加えた総合的なプロデュース力を活かして、「工場を持たない開発型メーカー」への転換を目指しております。この機能を活かして顧客ニーズを迅速・的確に反映した高品質・安全な飲料・食品を開発し、顧客満足度を高めるとともに収益力を強化し、企業業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## COFFEE

コーヒー“豆”知識

## BEANS

北緯25度から南緯25度に挟まれたエリアをコーヒーベルトと呼びますが、この間に位置する60カ国以上でコーヒーが栽培されています。コーヒーの木は気候（気温）に大きく影響を受け、気温が低すぎたり、逆に高すぎたりすると枯れてしまいます。残念ながら、日本のほとんどの地域は、コーヒーベルトに入っていませんが、屋内で育てれば、十分にコーヒーの栽培は可能です。最近では観賞用として、コーヒーの鉢植えが売られているのを見かけるようになりました。じょうずに育てれば、真っ白な可愛い花が咲き、ジャスミンに似た香りが楽しめますし、花が落ちた後には、真っ赤なチェリー（ごくまれに黄色いチェリー）が実ります。チェリーの中に通常2粒入っている種こそが、日頃慣れ親しんでいるコーヒーの原料なのです。収穫した種を土に植えて、双葉が出てくるのを心待ちにするのも楽しいでしょうし、いつか自分で収穫したコーヒーを焙煎（フライパンでも焙煎は可能です）して、一杯のおいしいコーヒーを……夢は大きく広がります。



# TOPICS

## ■ 事業領域

「食を通じて豊かさと健康を提供する」仕事をますます掘り下げてまいります。

当社の専門分野であるコーヒーについては、コーヒーが持つ様々な価値を提案しながら、商品や販売業態の開発を行ってまいります。コーヒーが持つ和みや寛ぎの演出効果や医学的効能は、新たなマーケットチャンスを秘めています。また、もうひとつの柱である食品部門では、「美味しく食べて健康になる」をテーマに、「食」の喜びや楽しさに安心・安全・健康の情報を添えて食材やメニューの提案を行ってまいります。

## ■ 目指す企業像

現存する価値ある商品をお客様に紹介する従来の商社機能に加え、目指すべき価値を具現化する商品を自ら開発し、その価値を提案できる「工場を持たないメーカー」(開発型専門商社)を目指してまいります。



森本 茂  
昭和28年8月17日生  
昭和53年4月 当社入社  
東京営業部長、食品部門長、東京支店長を歴任  
平成16年6月から当社常務取締役  
平成17年6月29日代表取締役社長 就任

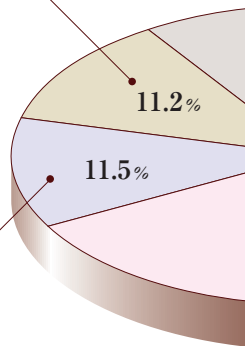
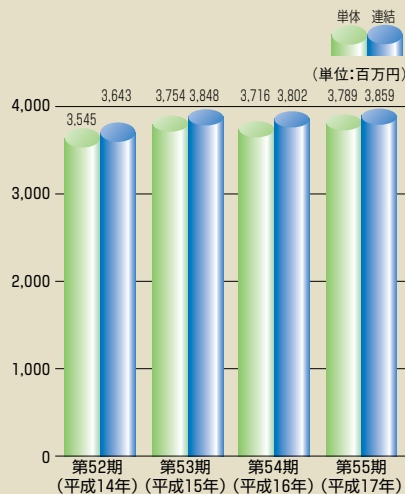
## ■ 行動指針

これらの事業を実現するために、お客様、お取引様、そして社員同士のコミュニケーションを密にして、強い信頼関係、良好な人間関係を築き、企業活動を通して社会に貢献してまいります。

# 商品別概況

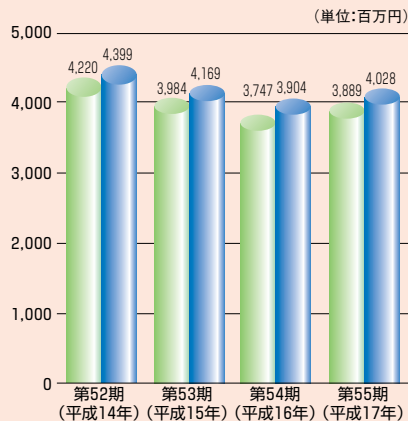
## コーヒー生豆

主力商品のコーヒー生豆のニューヨーク市場（コーヒー生豆相場期近銘柄）の価格（終値ベース）は、期初の74.10セント/ポンドから始まり、10月頃までは65セントから86セントの間で推移していましたが、最大の生産国であるブラジルの減産予想と投機筋の買いもあり、11月以降は高騰を続け、3月には135.75セントと5年振りに高値を更新し、期末は126.40セント/ポンドで終了いたしました。コーヒー生豆は3ヶ月から1年後の先物契約による売買が業界の慣行であるため、11月以降の相場価格の高騰が売上高に反映されるのは、6ヶ月程度後であります。このような状況のもと、コーヒー生豆の販売数量は微増し、平均販売単価も前期比若干上昇したため、売上高は37億89百万円（前期比2.0%増）となりました。



## 飲料製品及び原料

レギュラーコーヒーの売上高は、当社の自社ブランド商品が増加したものの、大口販売先のOEM商品が減少したため、前期比8.4%の減少となりました。インスタントコーヒーの売上高は、OEM商品が減少し、輸入製品も減少したため、前期比4.6%の減少となりました。茶類その他の売上高は、原料用の紅茶が減少したものの、原料用の緑茶、ウーロン茶及び小売用紅茶が増加したため、前期比21.4%の増加となりました。その結果、飲料製品及び原料の売上高は38億89百万円（前期比3.8%増）となりました。



## 常温食品

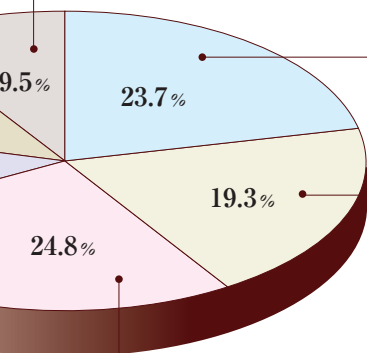
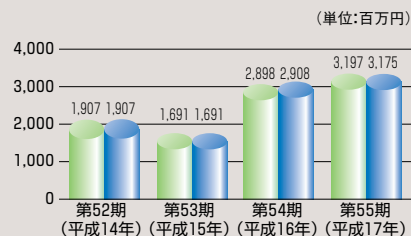
輸入食品の売上高は、フルーツカクテル缶詰、ブラジル産オレンジジュース、アワビ缶詰、黄桃缶詰、ミカン缶詰が増加いたしました。一方、自桃缶詰、枇杷缶詰、マッシュルーム缶詰、スイートコーン缶詰等が減少し、イタリア食品（パスタ、オリーブオイル）につきましても、パスタ製造会社の経営危機から再生までの約3ヶ月間のブランクにより減少いたしました。一方、国内メーカー商品の売上高は販路を拡大することにより増加し、食品の輸出売上高は引き続き販路開拓の成果により前期比32.7%増加となりました。その結果、常温食品の売上高は83億38百万円（前期比1.2%増）となりました。





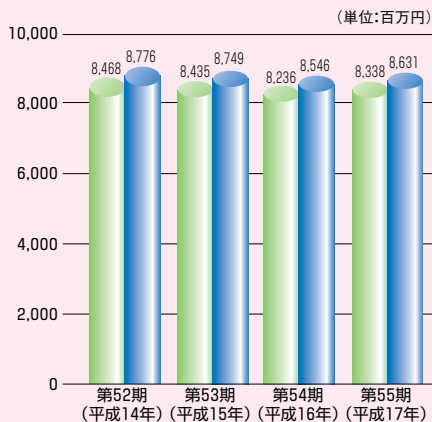
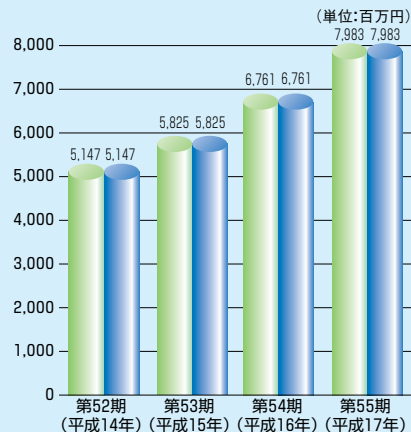
## その他

業務用コーヒー関連器具・備品の売上高は、販売先の需要減により引き続き減少いたしました。機械・機器の輸出は前期に引き続いて大口取引先と成約できたことにより増加いたしました。その結果、その他の売上高は31億97百万円（前期比10.3%増）となりました。



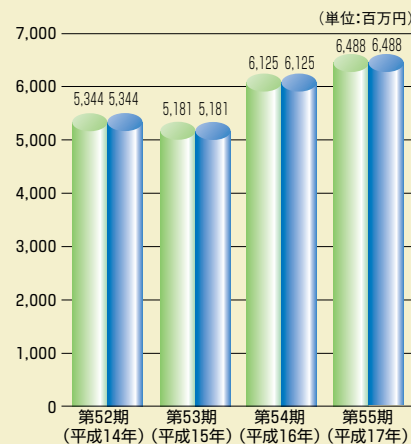
## 冷凍食品

冷凍食品の売上高は、輸入水産加工品（エビ、タコ）及び商品アイテムも増加した輸入調理加工品が引き続き好調を維持したことから大幅に増加するとともに、国内メーカー商品も販路を拡大することにより増加いたしました。その結果、冷凍食品の売上高は79億83百万円（前期比18.1%増）と大幅増加となりました。



## 食品原料

食品原料の売上高は、栗甘露煮及び栗原料が昨年度の品不足の反動で減少いたしました。また、国内天候不順等により国内相場が高騰した生鮮野菜は、米国より輸入したレタスが大幅に増加いたしました。その結果、食品原料の売上高は64億88百万円（前期比5.9%増）となりました。



# 連結財務諸表 要旨

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当連結会計年度末 (平成17年3月31日現在)	前連結会計年度末 (平成16年3月31日現在)		当連結会計年度末 (平成17年3月31日現在)	前連結会計年度末 (平成16年3月31日現在)
<b>流動資産</b>	<b>11,191</b>	<b>9,984</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,759</b>	<b>6,379</b>
現金及び預金	1,791	1,678	支払手形及び買掛金	2,729	2,813
受取手形及び売掛金	5,001	5,095	短期借入金	1,360	844
たな卸資産	3,668	2,731	一年以内返済予定長期借入金	900	722
その他	745	504	賞与引当金	145	162
貸倒引当金	△15	△25	その他	1,623	1,837
<b>固定資産</b>	<b>6,084</b>	<b>6,414</b>	<b>固定負債</b>	<b>3,447</b>	<b>3,166</b>
有形固定資産	2,764	2,820	長期借入金	1,897	1,698
建物及び構築物	1,101	1,153	その他	1,550	1,468
土地	1,395	1,395	<b>負債合計</b>	<b>10,206</b>	<b>9,545</b>
その他	268	271	<b>少数株主持分</b>	<b>188</b>	<b>186</b>
無形固定資産	14	9	<b>資本金</b>	<b>623</b>	<b>623</b>
投資その他の資産	3,305	3,584	<b>資本剰余金</b>	<b>357</b>	<b>357</b>
投資有価証券	2,794	2,450	<b>利益剰余金</b>	<b>5,847</b>	<b>5,646</b>
その他	567	1,189	<b>株式等評価差額金</b>	<b>57</b>	<b>43</b>
貸倒引当金	△57	△54	<b>自己株式</b>	<b>△4</b>	<b>△4</b>
<b>資産合計</b>	<b>17,275</b>	<b>16,399</b>	<b>資本合計</b>	<b>6,880</b>	<b>6,666</b>
			<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>17,275</b>	<b>16,399</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	前連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
売上高	34,166	32,049
売上原価	29,330	27,156
売上総利益	4,836	4,892
販売費及び一般管理費	3,776	3,546
営業利益	1,059	1,345
営業外収益	404	213
営業外費用	107	126
経常利益	1,356	1,432
特別利益	3	1
特別損失	834	17
税金等調整前当期純利益	525	1,416
法人税、住民税及び事業税	40	547
法人税等調整額	60	12
少数株主利益	7	7
当期純利益	416	849

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	前連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
資本剰余金期首残高	357	357
資本剰余金期末残高	357	357
利益剰余金期首残高	5,646	4,997
利益剰余金増加高	416	849
利益剰余金減少高	216	199
利益剰余金期末残高	5,847	5,646

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	前連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△389	295
投資活動によるキャッシュ・フロー	△221	△244
財務活動によるキャッシュ・フロー	713	△105
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△23
現金及び現金同等物の増減額	113	△78
現金及び現金同等物の期首残高	1,603	1,681
現金及び現金同等物の期末残高	1,716	1,603

# 財務諸表(単体) 要旨

## 貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末 (平成17年3月31日現在)	前期末 (平成16年3月31日現在)		当期末 (平成17年3月31日現在)	前期末 (平成16年3月31日現在)
<b>流動資産</b>	<b>10,934</b>	<b>9,728</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,738</b>	<b>6,336</b>
現金及び預金	1,593	1,495	支払手形	64	73
受取手形	383	594	買掛金	2,732	2,801
売掛金	4,613	4,484	短期借入金	1,360	844
商品	2,893	2,270	1年以内返済予定長期借入金	882	692
その他	1,466	908	賞与引当金	129	143
貸倒引当金	△15	△25	その他	1,569	1,781
<b>固定資産</b>	<b>3,624</b>	<b>4,228</b>	<b>固定負債</b>	<b>3,346</b>	<b>3,048</b>
有形固定資産	2,303	2,346	長期借入金	1,867	1,650
建物	825	852	その他	1,478	1,398
土地	1,386	1,386	<b>負債合計</b>	<b>10,084</b>	<b>9,385</b>
その他	92	107	<b>資本金</b>	<b>623</b>	<b>623</b>
無形固定資産	13	8	<b>資本剰余金</b>	<b>357</b>	<b>357</b>
投資その他の資産	1,307	1,874	<b>利益剰余金</b>	<b>3,453</b>	<b>3,554</b>
投資有価証券	542	479	<b>株式等評価差額金</b>	<b>45</b>	<b>41</b>
子会社株式	283	282	<b>自己株式</b>	<b>△4</b>	<b>△4</b>
その他	538	1,153	<b>資本合計</b>	<b>4,474</b>	<b>4,571</b>
貸倒引当金	△57	△41	<b>負債・資本合計</b>	<b>14,558</b>	<b>13,957</b>
<b>資産合計</b>	<b>14,558</b>	<b>13,957</b>			

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位:百万円)

	当期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	前期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
売上高	33,686	31,485
売上原価	29,263	27,060
売上総利益	4,423	4,424
販売費及び一般管理費	3,459	3,175
営業利益	964	1,249
営業外収益	180	138
営業外費用	118	141
経常利益	1,026	1,246
特別利益	—	2
特別損失	833	12
税引前当期純利益	193	1,236
法人税、住民税及び事業税	14	519
法人税等調整額	63	14
当期純利益	115	701
前期繰越利益	190	134
当期末処分利益	305	836

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 利益処分

(単位:円)

	第55期 (株主総会承認日 平成17年6月29日)
当期末処分利益	305,674,584
固定資産圧縮積立金取崩額	15,969,713
合計	321,644,297
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金 (1株につき20円)	159,798,400
次期繰越利益	161,845,897

## ホームページのご案内

<http://www.ishimitsu.co.jp/>

当社ホームページでは、  
企業情報・IR情報、  
採用情報、最新ニュース等、  
当社に関する情報を  
提供しております。

▲IR情報

# 会社情報

平成17年3月末現在

## 会社の概要

会社設立 昭和26年5月  
株式公開年月日 平成14年11月12日  
会社名 石光商事株式会社  
資本金 62,320万円  
本社 神戸市灘区岩屋南町4番40号  
従業員数 153名

## 役員(平成17年6月29日現在)

代表取締役会長 石光 輝男  
代表取締役副会長 駒澤 啓之  
代表取締役社長 森本 茂  
専務取締役 中西 繁  
専務取締役 草場 鉄郎  
常務取締役 久保 潤一  
取締役 内田 十司夫  
取締役 北川 誠  
取締役 影山 寿一  
取締役 市橋 理幸  
常勤監査役 入江 和義  
監査役 植松 尚三  
監査役 樋口 進二

## 株式の状況

- ① 会社が発行する株式の総数 22,400,000株  
② 発行済株式総数 8,000,000株  
③ 株主数 3,098名  
④ 大株主

株主名	所有株式数	議決権比率
石光商事従業員持株会	453,160 株	5.67 %
石光 輝男	398,090	4.98
三菱商事(株)	378,370	4.73
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	348,000	4.35
丸紅(株)	270,270	3.38
日米珈琲(株)	254,000	3.18
(株)三井住友銀行	252,640	3.16
駒澤 啓之	210,000	2.62
竹田 和平	200,000	2.50
伊藤忠商事(株)	200,000	2.50

## 株式分布状況

所有者別		所有数別
10名 ( 0.31% )	金融機関	1,152,360株 ( 14.42% )
5名 ( 0.16% )	証券会社	3,700株 ( 0.05% )
36名 ( 1.16% )	その他の法人	1,557,420株 ( 19.47% )
3名 ( 0.10% )	外国法人等	38,000株 ( 0.48% )
3,044名 ( 98.27% )	個人・その他	5,248,520株 ( 65.58% )
3,098名 ( 100.00% )	合計	8,000,000株 ( 100.00% )

## グループ情報

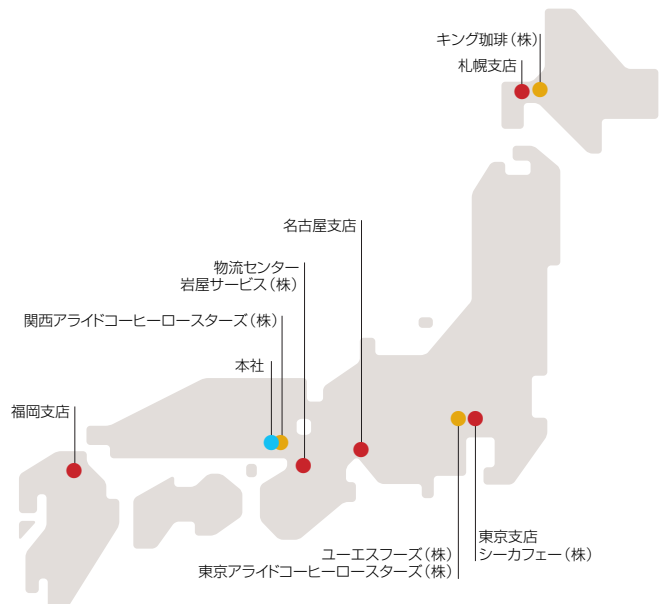
- 当 社 … 当社取扱主要品目を海外から輸入または国内で仕入れ、全国のコーヒー焙煎業者、業務用食品問屋、飲料メーカー、食品加工メーカー、量販店、外食チェーンに販売しております。
- シ ー カ フ ェ ー(株) … 当社取扱品目のアンテナショップとしてイタリアンレストランを経営しております。
- ユ ー エ ス フ ーズ(株) … コーヒー生豆を自家焙煎喫茶店等の小口ユーザーに販売しております。
- キ ン グ 珈 琲(株) … レギュラーコーヒーを焙煎し、常温食品及び冷凍食品とともに業務用として喫茶店等に販売しております。
- 岩 屋 サ ー ビ ス(株) … 関西地区における当社の運送業務を行っております。
- 関西アライドコーヒーロースターズ(株) … 当社が販売するレギュラーコーヒーの焙煎・加工受託を行っております。
- 東京アライドコーヒーロースターズ(株) … レギュラーコーヒーを焙煎し、飲料メーカー、量販店に販売しております。

## 〈事業所〉

- 本 社 神戸市灘区岩屋南町4-40
- 東 京 支 店 東京都大田区山王1-4-6
- 福 岡 支 店 福岡市博多区堅粕3-13-13
- 名 古 屋 支 店 名古屋市北区五反田町91
- 札 幌 支 店 札幌市豊平区美園一条6-1-31
- 物 流 セ ン タ ー 大阪市西淀川区福町1-2-24



本社



# Cafetopia

®

## カフェトピア

とびだす香りが  
お楽しみ!  
(初回開封時)

この香り!  
アロマボトル

香りを閉じこめた  
圧カパック!

ひきたての豊かな香気(アロマ)を  
ボトル缶に閉じこめました。



あけてからも  
香り長もち!

光も空気も通しません。  
(キャップはしっかり閉めてください)



こだわりの原料!

香りの厳選コーヒー豆だけを  
つかっています。

ここが新発想! **アロマボトル**とは...

焙煎・粉碎したての、ガスがどンドン出ている状態の  
コーヒーをそのまま高压パックでボトル缶に封じこめ  
るという画期的な製品です。  
(特許第2809725号/製法特許出願中)



▼こんなことが実現しました。

**その1**

陽圧密封とコーヒー発生ガスの作用による「陽圧環境」で、製造後も長期にわたり多くの揮発性香気が粉にとどまっています。また、酸素を追い出して不活性ガス置換密封して、遮光・ガスバリア性に優れた容器とともに、品質保持に大きな効果を上げています。

**その2**

開栓したときに「プシュー」という音とともに飛び出し部屋に広がるコーヒーの香り、湯を注いだときに盛り上がる細かな泡と、立ち昇る香気は、まるで専門店の挽き売り品のようです。

**その3**

そのまま再密封して香り長もち! 必要量の使用後はそのまま再密封でき、密封容器に移し替える必要もなく、おいさがとても長持ちするのです。使い終わったとき、また欲しくなるのは、このおいさがポイントです。

■TEL・FAXにてご注文を受け付けております。

**TEL.078-861-7782 FAX.078-806-3824**

石光商事株式会社 コーヒー・飲料部門 兵庫県神戸市灘区岩屋南町4-40 E-mail:cafetopia@ishimitsu.co.jp

### 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
1単元の株式の数	100株
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村証券株式会社 全国本支店

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)  
0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪支店証券代行部)  
ホームページ  
<http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

公告掲載新聞 日本経済新聞

○ただし、貸借対照表および損益計算書に関する情報は、  
下記インターネットアドレスにおいて提供します。  
<http://www.ishimitsu.co.jp/japanese/ir.html#koukoku>

**r100**  
古紙配合率100%再生紙



この事業報告書は、環境に配慮し、  
再生紙と大豆油インキを使用して  
おります。